

## 12月議会 主な議案への賛否と主張

一反対した10議案より以下抜粋  
【40議案中(決算除く)、30議案に賛成】

### ✓「議員の期末手当、増やす必要なし」 一般会計補正予算（議案220号） [賛否] 反対▶[結果] 可決

「議員報酬は削減すべき」という考え方のもと、予算案の一部「議会費」に、支給月数0.05ヶ月増（国に準じ）が含まれることに反対しました。（※1 議員年金について）

### ✓「市職員の扶養手当、減額や廃止に反対」

市職員の給与の改定に関する条例改正（議案233号・237号・238号） [賛否] 反対▶[結果] 可決

国に準じて市職員の扶養手当の額の改定（減額や廃止）などを行うという内容が含まれていました。公務員／民間企業に関係なく、保育、介護などの受け入れ態勢が不十分な現状において、減額や廃止は厳しいと考え反対しました。

### ✓「景観、耐震性他、問題あり！」 建築物の制限に関する条例改正（議案236号） [賛否] 反対▶[結果] 可決

旧大名小学校跡地の容積率を450%から800%にすることは、景観や耐震性（※2）、道路や下水道などの公共施設の負荷など、健全な都市環境という観点から問題があると考え、反対しました。

### ✓「地場企業の育成などの点で懸念あり」

市営住宅・教育的施設の指定管理者の指定（議案245号～248号） [賛否] 反対▶[結果] 可決

指定管理者制度（※3）すべてに反対ではありませんが、中央区内と南区内の市営住宅に関する議案については、地場企業を育成する観点から評価のあり方などに懸念があり反対、背振少年自然の家と海の中道青少年の家の議案については、教育的観点から指定管理者制度になじまないと考え反対しました。

※1 「議員年金」が廃止され、いま議員は「国民年金」に加入していますが、「議員も『厚生年金』へ加入できるようにすべき」という意見書を出す動きが全国的に広がっています。まだ福岡市議会ではそのような意見書は採択されていませんが、「意見書を出すべき」という動きがあり、要注意です。国民年金と厚生年金の格差は全国的に見直すべきであり、議員だけを優遇すべきではありません。

※2 熊本地震の検証から超高層ビルの新たな問題として、長周期パルスの問題が指摘されています。震度7が想定されている警固断層に近い旧大名小学校跡地の超高層ビルは危険性が高いと考えます。

※3 指定管理者制度とは、公の施設の管理・運営を、営利企業・財団法人・NPO法人などに包括的に代行させることができる制度のこと。2003年から制度化され、経費の節減や住民サービスの向上などを目的に、徐々にその対象が広がっています。

ご存じですか

## 「請願」制度 ~「あなたの声」を議会に届けませんか。いつでもご相談ください~

市民の声を議会でしっかりと受け止め、議論の機会をつくるため、私たちはできる限り紹介議員となり、皆さんの政治参画を応援しています。（紹介議員がない場合は「陳情」扱いとなり、福岡市議会では議論が一切行われません。）

### 2017年も、以下の請願の紹介議員になりました。

- 医療的ケア児の保育園入園に関する請願
- 公立夜間中学校の設立を求める請願
- 議会基本条例の制定を求める請願
- 和白干潟のラムサール条約登録を求める請願
- 玄海原発の再稼働の安全性に関する説明会開催を求める請願 ほか

請願の審査結果  
(平成26年～平成29年)



### 議論乏しい、福岡市議会の現状

請願の多くは「継続審査」となり、実質棚ざらしで、十分な議論が行われていないのが福岡市議会の現状です。出された請願は常任委員会などで審査し、本会議で採択・不採択を決定しますが、平成26年～29年の4年間で出された92件の請願のうち、採択は10件、不採択は13件、残りの約75%＝69件は「継続審査」となっています。しっかり議論が行われる議会に変えていきます！

日常のお困りごと、相談ごとはありませんか？ 市政や議会への提案や要望も承ります。請願の紹介議員をお探しの方もご連絡ください。「緑と市民ネットワークの会」は市民の皆さんのが市政に反映させていきます。

# 市民目線で市政をチェック!!



一般質問 あらき龍昇 議員

一般質問で追及しました

「Jアラート訓練」では、市内全域の携帯電話に緊急速報メールを配信するなどの「情報伝達訓練」や、天神中央公園と舞鶴小学校で行われた「避難行動訓練」、交通局は地下鉄を駅に停車させる訓練、消防局は局内の連絡体制の確認訓練を行いました。



### ◆本当に攻撃を受ければ、こんな訓練は意味がない

「敵愾心と不安をあおるだけ」といった声が市民からもあがりました。

今回の訓練は、安倍政権に「忖度」した、大変問題のある訓練だったと考えます。

### ◆内容の協議なし、結果集約もなし

非常に大規模な訓練であったにもかかわらず、答弁では、市の最高意思決定機関である市政運営会議で協議されていなかったということが明らかとなりました。

危機管理を所管する市民局は、「情報伝達や初動対応の訓練ができた」、「個人で身を守る訓練ができた」と答弁する一方、訓練全体の結果を集約していません。

### ◆子どもに与える不安への考え方

教育委員会は市民局の協力依頼で各市立学校に案内し、校長の判断で訓練を実施したと言っていますが、舞鶴小学校以外にも訓練が行われた小学校があつ

たにもかかわらず、その把握をしていません。  
子どもたちのPTSDが危惧されますが、そういった心理的なケアもまったく考えられていませんでした。

昨年3月に提出された、第三者による事故検討委員会の報告を受け、福岡市は工事再開を検討。事故区域の地層を人工岩盤で強化しナトム工法で再開するという結論を出了しました。

### ◆低コストのナトム工法に執着、あげく147億円増

「事故原因である可能性が高い事項」として、事故検討委員会から指摘された“複雑な地層に対する対策”についての問題は、事故前から市の技術専門委員会でも繰り返し指摘されていました。市はそれを受け止めないまま工事を進め、事故を起こしたのです。

過去の議事録から、ナトム工法を選択した市の設計ミスと考えられます。経費を安くするためにナトム工法に執着した結果、113億円の予定が、260億円の工事になってしまいました（事故区域分）。

事故検討委員会の報告に対し、交通局は「法的過失について記載されていないので、法的責任はない」とし、誰も責任を取っていません。

私たちは、技術的にも、また仮復旧の際の埋没物の問題を考えても、ナトム工法ではなく、開削工法に変更すべきだと提案しています。

### ◆問われる公共工事のあり方

そもそもこの延伸工事は、七隈線をはじめから天神駅に接続させておけば必要がありませんでした。わずか1.4kmの距離に450億円（当初予算）もかけて延伸する必然性があったのか？いま、公共工事のあり方が問われています。



地下鉄陥没事故の真相  
反省ないまま、工事再開

博多駅前